

# Newsletter



Institute for International Monetary Affairs  
公益財団法人 国際通貨研究所

## ブラジルの交易条件改善と一次産品貿易について

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 主任研究員  
中村 明

[akira\\_nakamura@iima.or.jp](mailto:akira_nakamura@iima.or.jp)

### <要旨>

- (1) ブラジルの交易条件は、2004年終盤以降総じて緩やかに改善を続けてきた。輸出超過となっている食糧・エネルギー・鉱物資源といった一次産品の価格が上昇する一方で、輸入超過である機械製品の価格が安定的に推移したことが主因である。
- (2) 加えて、品種の多様化、および品質・仕様の差異化、製造加工などにより高付加価値化した、いわゆる非伝統的一次産品が比率を高め、一次産品全般の価格競争力が高まったことも交易条件の改善に寄与したとみられる。
- (3) かつてブラジルが輸入代替工業化政策に傾斜した時期と状況を大きく異にする点は、途上国とりわけ中国のような人口大国の工業化により、従来は先進国頼みと考えられてきた一次産品の輸出が振興国・途上国の需要に支えられ、安定的な増加が見込まれるようになったことである。一方で、これら新興国・途上国が豊富な労働力を用いて生産する安価な工業品を輸入できるといった、当時は想定されなかった恩恵を享受した。
- (4) これまでの需要の強い伸びに支えられ、ブラジルの一次産品および関連する製造業の供給力は拡大しており、今後需要の落ち込みなどによる一次産品価格の下落や、生産・輸出の調整の可能性を否定することはできない。
- (5) ただし、経済は、①累積債務問題、②インフレの高進、③硬直的な為替

相場制度など、かつて苦しんだ諸問題の解決に一定の目途をつけ、豊富な天然資源や農業に適した気候風土といった当初から保有していた強みを活かせる体質となったことを踏まえると、かつてに比べ拡大の持続力が高まったといえるのではなかろうか。

## <本文>

### はじめに

ブラジルの交易条件は、2004年終盤以降総じて緩やかに改善を続けてきた。主因は輸出の主力である食糧や天然資源など一次産品の価格が、アジアをはじめ新興国・途上国の需要増加に支えられ上昇したことである。一方、輸入サイドでは、中国を中心とした東アジア経済の工業化の進展により、ブラジルの貿易取引において輸入超過となっている機械製品の価格が下落あるいは安定的に推移してきたことが交易条件の改善に寄与してきた。

こうした世界経済の潮流変化に加え、ブラジルにおいて、品種の多様化、および品質・仕様の差異化、製造加工などにより高付加価値化した、いわゆる非伝統的一次産品が比率を高め、一次産品全般の価格競争力が高まったことも交易条件の改善に寄与したとみられる。

かつてブラジルをはじめ中南米諸国は、一次産品を輸出し獲得した外貨で工業品を輸入する典型的な一次産品依存の状況にあったため、各国政府は、こうした経済構造に危機感を覚え、保護貿易と輸入財を国内生産で代替するための産業育成・工業化政策を組み合わせた輸入代替工業化を進めた。しかし、その後の各国における政策の行き詰まりと、一次産品および関連する工業品輸出の増勢は、国家主導の輸入代替工業化政策に対し一定の疑問を投げかけたといえる。これらの点を踏まえると、現在のブラジル経済の好調と一次産品との関連はどのように解釈すべきだろうか。以下では、ブラジルの交易条件に影響を与えた要因を整理・考察したうえで、輸入代替化工業政策の持つ意味について考えてみたい。

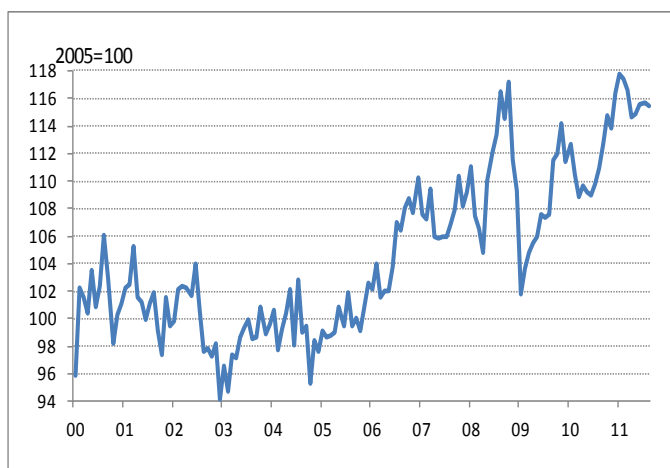
### 1. ブラジル交易条件の改善と海外経済の潮流変化が及ぼした影響

ブラジルの交易条件指数（輸出物価／輸入物価）は、2000年以降しばらく横這いで推移した後、2004年終盤に上昇に転じ、その後は振れを伴いながら改善傾向で推移してきた（第1図）。ブラジルの貿易において輸出超過となっている食糧・エネルギー・鉱物資源といった一次産品の価格が上昇する一方で、輸入

超過である機械製品の価格が安定的に推移したことが主因である。

これは、2001年の中国のWTO加盟や域内でのFTA締結の進展などを機に、東アジアにおいて生産ネットワークの形成が本格化し、アジアが需要・供給の両面で世界経済におけるプレゼンスを高めたことが影響している。この頃よりアジアをはじめ新興国の経済成長に弾みがつき、世界全体でみても経済規模の拡大が勢いを増した。

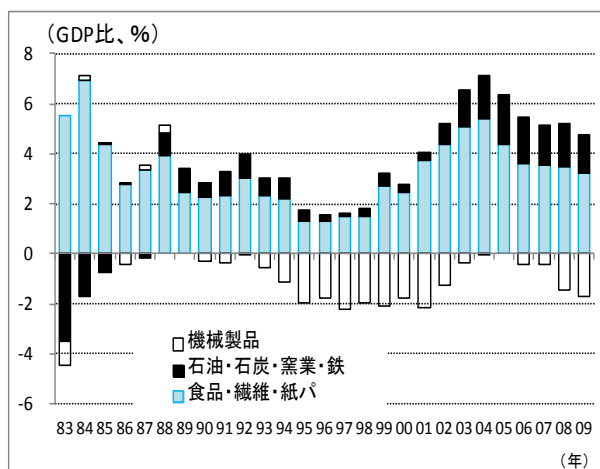
図表1：ブラジルの交易条件指数の推移



(注) OECD ウェブサイトおよび Bloomberg データより作成

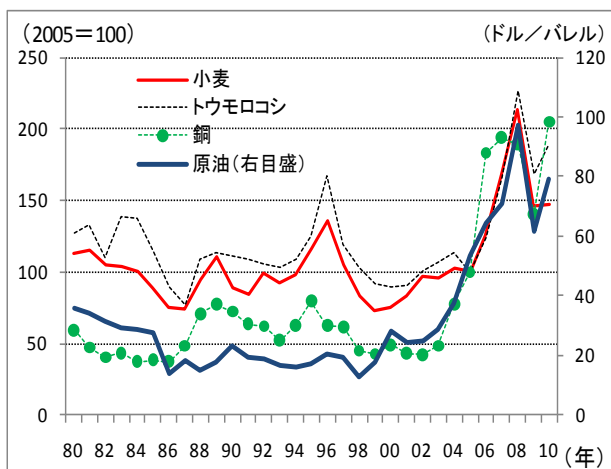
結果として、ブラジルの輸出における主要品目であり、貿易取引において常に大幅輸出超過となっている食糧・エネルギー・鉱物資源といった一次産品価格が上昇傾向を強め、輸出価格の上昇、交易条件の改善に大きく影響した。

図表2：ブラジルの貿易収支の推移



(注) 経済産業研究所“RIETI-TID2010”より作成。

図表3：世界の主要な商品市況の推移

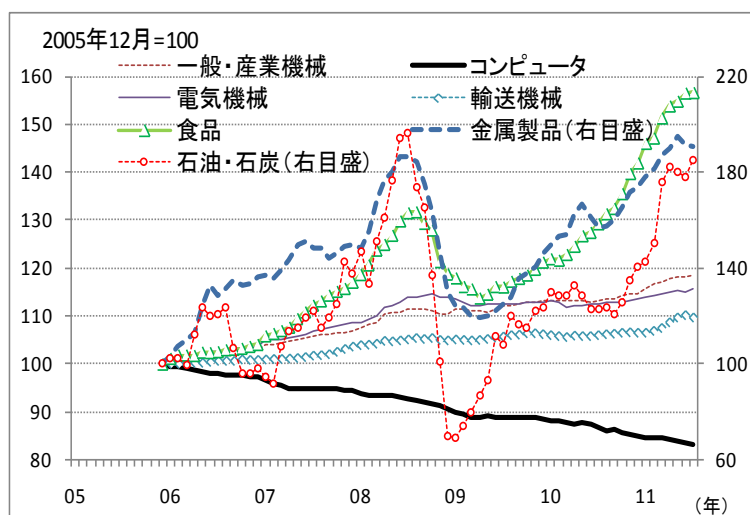


(注) IMF “World Economic Outlook Database”より作成

他方で、輸入価格に関して注目すべきは中国との関係である。輸入全体に占める中国の割合は約2割に達しており、その多くを機械製品が占める。機械製品は、ブラジルの貿易において輸入超過が続いているため、東アジアの工業化とりわけ中国の生産力の急増により、価格の安定もしくは下落のメリットを享受してきた。

ブラジルの輸入物価の品目別内訳は入手ができないため、代わりに世界市場の代表である米国の輸入物価をみると（図表4）、コンピュータの下落に加え、輸送機械、電気機械が安定的に推移するなど、総じてみれば機械製品の価格は過去5年間極めて落ち着いている。米国と同様に、ブラジルにおいても機械製品の輸入価格は安定的に推移し、輸入物価全体の安定に寄与してきたと推測される。

図表4：品目別にみた米国の輸入物価の推移



(注) 米国労働省統計より作成。

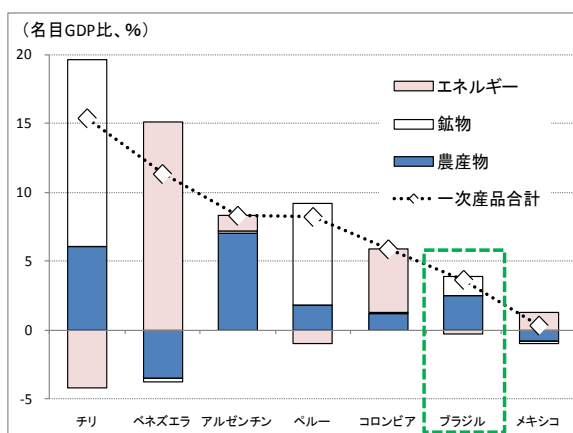
## 2. ブラジルにおける非伝統的一次産品の開発

海外経済の趨勢変化という要因に加え、ブラジルにおける一次産品の付加価値向上へ向けた取り組みも輸出品の品質や競争力を高め、海外からの製品の需要増大を通じ輸出物価上昇の要因になったと考えられる。

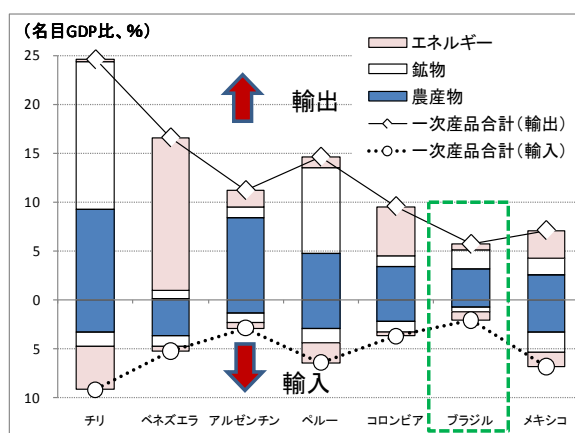
図表5にみられるとおり、ブラジル経済の一次産品貿易への依存度は、他の中南米諸国との比較で見れば大きくはないが、そのなかでは農産物は比較的大きな割合を占めている。

図表 5：中南米主要国の一次産品貿易への依存度

貿易収支



輸出・輸入



(注) 経済産業研究所統計より作成。

中南米諸国では、1990年代以降、外資系企業や大手地場企業が現地の農家と協働し、近代的かつ効率的な生産方法、また工業部門の手法を取り入れた販売方法・生産管理の採用により、高付加価値・ブランド力を有した収益性の高い農産物産業を育成してきた。そのなかでもとくにブラジルでは、広大な土地での生産が有利な大豆およびそれを飼料穀物とする養鶏・鶏肉生産、あるいは砂糖をベースにしたエタノール生産などの高付加価値化が顕著であり、かつてのコーヒーと砂糖を中心とした農産物輸出から間口を大きく広げた。このため、WTOにおける農業保護の削減といった貿易自由化の進展や、健康や食の安全への関心の高まりによる先進国での需要の拡大にも支えられ、非伝統的の一次産品と呼ばれる広範かつ付加価値の大きい農産物の輸出が拡大した。また、ユーカリと他の農作物との混栽（アグロフォレストリー）を基盤とした製紙・パルプ製造など、環境配慮型のビジネスも行われきた。

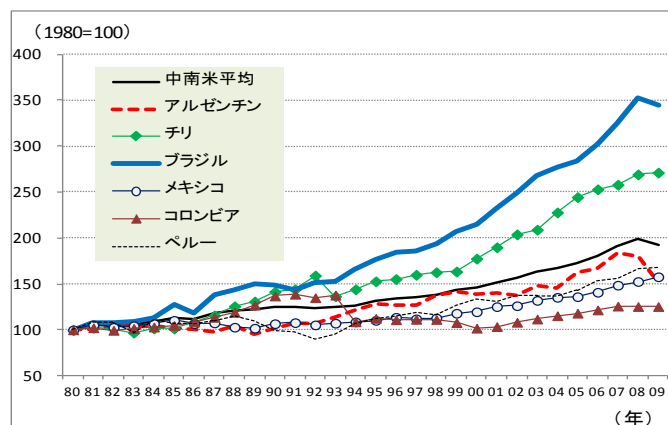
図表 6：欧米企業・地場企業によるブラジルにおけるアグリビジネスの事例

企業名	業種	国籍	アグリビジネスの概要
ADM	農業生産	米国	大豆生産農家に生産資材や融資を提供
ブンゲ	農業生産	米国	
カーギル	農業生産	米国	
F.O.リヒト	農業生産	ドイツ	サトウキビを原料にエタノールを生産
VCP	パルプ・製紙	ブラジル	小規模農家とユーカリの委託栽培契約を結び、技術協力や融資を実施
サディア	冷蔵・冷凍食品	ブラジル	家畜の排泄物を分解するバイオダイジェスターで温室効果ガスを削減し、カーボンのクレジット(排出削減証明)を獲得

(注) 各種報道より作成。

結果として、ブラジル農業全体でみた労働生産性は、過去 30 年間、高いパフォーマンスを示し、農業大国アルゼンチンをはじめ他の中南米諸国を上回るペースで上昇を続けてきた。

図表 7：中南米諸国の農業の労働生産性（2000 年価格、実質ベース）



(注) 世界銀行 “World Development Indicators” より作成。

### 3. 輸入代替工業化政策と新しい一次産品輸出経済

以上でみたような一次産品貿易の好調および交易条件の改善は、ブラジルが 1950 年代以降取り組んだ輸入代替工業化政策の正当性に対し一定の疑問を投げかけているようである。輸入代替工業化政策が実施された当時と現在とで状況を大きく異にする点は、既述のとおり、途上国とりわけ中国のような人口大国の工業化による新興国の台頭である。この結果、ブラジルでは、かつて先進国頼みと考えられてきた一次産品の輸出が振興国・途上国の需要に支えられ、総じて安定的な増加が可能となる一方で、これら新興国・途上国が豊富な労働力を用いて生産する安価な工業品を輸入できるといった当時は想定されなかった恩恵を享受した。また、そもそも一次産品と関連の薄い機械製品などの工業品への過剰な期待を背景に、豊富な天然資源の存在や、農業に適した気候風土という強みを活かしきれない工業化を実施したことに問題があったといえよう。

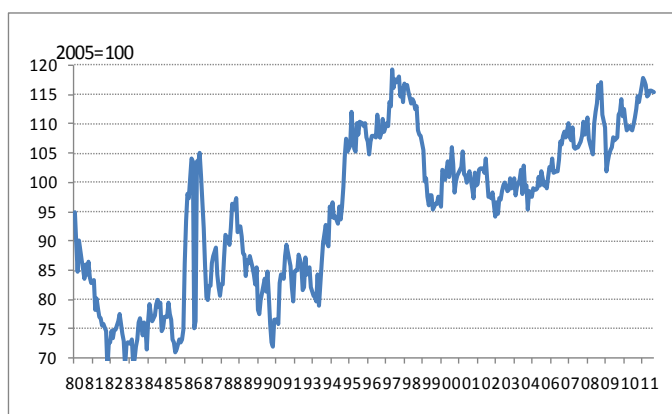
これまでの需要の強い伸びに支えられ、ブラジルの一次産品および関連する製造業の供給力は拡大しており、今後需要の落ち込みなどによる一次産品価格の下落や、生産・輸出の調整の可能性を否定することはできない。ただし、経済は、①累積債務問題、②インフレの高進、③硬直的な為替相場制度など、かつて苦しんだ諸問題の解決に一定の目途をつけ、豊富な天然資源や農業に適した環境といった当初から保有していた強みを活かせる体質となったことを踏まえると、かつてに比べ拡大の持続力が高まったといえるのではなかろうか。

## (補論) ブラジル経済とプレビッシュ・シンガー命題

ブラジルをはじめとする中南米諸国の輸入代替化政策への傾斜へは、「一次産品輸出経済は工業品輸出経済に対して交易条件が悪化するため、一次産品への特化の結果、経済は停滞する」という“プレビッシュ・シンガー命題”が精神的支柱として大きな役割を果たした。しかし、政府主導の輸入代替工業化は、経済効率の低下と財政赤字の拡大につながり、1980年代に入ると各国は重い債務負担に直面し、経済の停滞とハイパーインフレーションに悩まされた。ブラジルは、その後1999年の為替相場の切り下げと変動相場制への移行により輸出競争力が回復するまで、経済が拡大基調を鮮明にすることはなかった。

他方で、交易条件指数は、冒頭でみたように過去10年間、またより長いタイムスパンでも振れを伴いつつ上昇を続けてきたことから(図表8)、同命題に対する批判的な見方が増えてきた。主な理由の一つは、本稿で指摘したとおり、中国、インドなど巨大な人口を有する途上国が経済発展を遂げ、新興工業大国が誕生するという、命題の導出時に想定されていなかった事態が生じたことである。先進国と農業中心の途上国という、前提となっていた世界経済の勢力図はその後様相を異にした。ブラジル経済におけるプレビッシュ・シンガー命題の位置付けは、命題自体は正しくとも、導かれた際の前提条件が変わると結論が変わる典型例と解釈できる。

図表8：ブラジルの交易条件指数の推移



(注) OECD ウェブサイトおよび Bloomberg データより作成

以上

## 参考文献

- 宇佐美耕一・小池洋一他編著『図説ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年
- 経済産業省『通商白書 2011』経済産業省ホームページ
- 国連開発計画編『世界とつながるビジネス』英治出版、2010年
- 谷洋之『プレビッシュ「ラテンアメリカ経済発展とその主要問題」の再検討―「挫折した」開発論から思想的考察へ―』*Bulletin of the Faculty of Foreign Studies, Sophia University* No.33、1998年
- 松井謙一郎『最近の中南米地域で一層拡大する中国のプレゼンスと通貨・金融面での協力の動き』*IIMA, News Letter*、2010年1月13日
- 西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011年
- 二宮康史著『ブラジル経済の基礎知識』JETRO、2007年
- 星野妙子『ラテンアメリカの一次産品輸出産業の新展開』ラテンアメリカレポート、Vol24.No.2、2008年8月29日
- Jeffe, Steve. (1992), “Exporting High-value food commodities,” *World Bank Discussion Papers*, No.198.
- Jeffe, Steve. and Spencer Henson. (2004), “Standard and Agro-Food Exports from Developing Countries Rebalancing the Debate,” *World Bank Policy Research Working Paper 3348*.
- World Bank(2002), “From Natural Resources to the Knowledge Economy,” *World Bank Discussion Papers*, No.198.

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2011 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)  
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.  
Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan  
Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422  
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2  
電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422  
e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)  
URL: <http://www.iima.or.jp>